

令和4年度 第1回 健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和4年9月2日（金）18時30分～20時30分
開催場所	横浜市役所 みなと1・2・3
出席者	健康横浜21推進会議委員 17人
欠席者	健康横浜21推進会議委員 3人
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	1 開 会 2 あいさつ 3 新委員紹介 4 議 事 (1) 第2期健康横浜21最終評価報告書について (2) 第3期健康横浜21の目次構成案について (3) 健康横浜21推進会議の各検討部会の検討状況について ア 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 イ 歯科口腔保健推進検討部会 ウ 食育推進検討部会及び食環境整備検討会 (4) 横浜市におけるフレイル予防の推進について (5) 各団体の重点取組について 5 その他
開 会	（健康福祉局健康安全部 嘉代部長） ただいまより「令和4年度第1回 健康横浜21推進会議」を開催する。本日の会議について、公開とさせていただくこと、および議事録作成のため、議事内容を録音させていただくことについて、御了解いただくようお願いする。 次に、事務局から定足数について御報告する。本会議は、横浜市附属機関設置条例の規定に基づき、健康横浜21の推進及び評価・策定に関する事務を行う場として設置したものである。 当部会の委員総数は20名で、本日は17名の委員が出席している。健康横浜21推進会議運営要綱第6条第3項の規程に基づき、過半数を満たすため、本会議が成立していることを報告する。
あいさつ	（健康福祉局 佐藤局長） 委員の皆様におかれては、市民の健康づくりの推進について、日頃から様々な形で御尽力いただいていることに、厚く御礼申し上げます。 今年度は「第3期健康横浜21」の策定作業に取り組んでいる。約10年ぶりに市民の健康づくりの指針を作り変える、言わば節目の年を迎えている。 横浜市は、この先4年間の市政運営の柱となる「横浜市中期計画」の素案を発表したところである。 この素案の中でも「市民の健康づくりと安心確保」は、重点的に取り組む38の

	<p>政策の一つとして掲げられている。何をするにあたって健康は重要である。これまでも「健康寿命を延ばすこと」を基本目標に掲げ、取り組んできたが、今後もこの「健康寿命」を重視し取り組んでいきたい。</p> <p>また、新型コロナの流行が始まってから2年半が経過し、生活様式が変わってきている。このような社会の大きな変化も踏まえ、市民の健康づくりの指針となる計画を、皆様とともに作り上げていきたい。</p> <p>本日は限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見、皆様の経験・知識を授けていただき、より良い計画づくりを目指していきたい。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
新委員紹介	<p>今年度新たに来られた6名の委員の方をご紹介申し上げます。</p> <p>横浜南労働基準監督署 齊藤委員 横浜PTA連絡協議会 島田委員 健康保険組合連合会神奈川連合会 堤委員 日本チェーンストア協会 相鉄ローゼン 吉田委員</p> <p>また本日は残念ながら欠席であるが テレビ神奈川 福原委員 横浜市食生活等改善推進員協議会 米山委員</p> <p>以上6名の委員の皆様、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>これからの進行を豊福会長にお願いする。</p>
議 事	<p>議事（1）第2期健康横浜21最終評価報告書について 事務局から資料3【冊子】第2期健康横浜21最終評価報告書について説明</p> <p>（豊福会長） 意見・質問はあるか。 （一同） 特になし</p> <p>議事（2）第3期健康横浜21の目次構成案について 事務局から資料4 第3期健康横浜21～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～目次構成案について説明</p> <p>（豊福会長） 意見・質問はあるか。 （一同） 特になし</p> <p>議事（3）健康横浜21推進会議の各検討部会の検討状況について ア 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会 事務局より資料5 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会の検討状況について 説明</p> <p>（豊福会長） 意見・質問はあるか。</p>

	<p>(佐藤委員) 検討部会に出ておりながら質問となるが、特定健診におけるLDLコレステロールが最下位県よりも男性の場合は悪い。全国の中でも最下位ということか。</p> <p>(事務局) 都道府県と比較してしまえばそういうこととなる。</p> <p>(佐藤委員) 自分も年齢的には気を付けなければいけない。神奈川県は通勤時間が一番長いと報道されていた。つまり帰ってくるのも遅い。22時半、23時に帰宅してから食事となると必然的にこうなる傾向にある。このデータは平成30年なのでコロナ流行以前であるため、コロナ禍になってから、家にいる時間が増えて余計に食べてしまってより悪くなっているのか、運動ができて少し良くなっているのかわからないが、対策は重要だと考えている。そうすると、AYA世代へのアプローチも非常に重要なのではないか。発症する年代になってから何かするのではなくて、もっと前の世代からのアプローチが必要。健康ならすべていいというわけではないし、健康のために人生暮らしているわけではないのは分かっているが、横浜市が「健康寿命延伸」という目標を掲げているなら、そこにより具体的な対策が必要なのではないかと考えた。</p> <p>(豊福会長) 佐藤委員の指摘の通りだと思う。発言いただいた内容については部会にて検討していくことができたと思うが、最下位県ということは、データに県の他郡市も含まれてしまっているもので、神奈川県がどうなのかも表しておくといいかもしれない。</p> <p>また、女性の労働力人口が男性と同じように上がったにもかかわらず、健診受診率が上がらない。女性が健康寿命を延ばすことに興味を持てるように、元気に仕事を続けていかななくてはならないということをAYA世代にも訴えていけたらと思う。</p> <p>腰痛症に関して産業保健での取組が大事。産業保健総合支援センターで取組をしてくださっている部分も紹介していけたらよい。</p>
	<p>議事（3）健康横浜 2 1 推進会議の各検討部会の検討状況について</p> <p>イ 歯科口腔保健推進検討部会</p> <p>事務局より資料6 令和4年度歯科口腔保健推進検討部会の検討状況について説明</p>
	<p>(豊福会長) 佐藤委員にコメントをお願いします。</p> <p>(佐藤委員) 歯科口腔保健の検討部会には、14名が参加しており、うち2名が歯科医師会の委員で他に12の関係団体が参加している。歯科について議論できる場でありありがたいと思う。資料6について補足するが、妊婦歯科健診の受診率について、目標を40%以上としているが、35～38%にあるのが現状。今後医師会の協力も</p>

	<p>得て啓発していきたい。妊婦の頃から口の健康に興味を持ってもらうことが、50歳代、60歳代、高齢者の口の健康につながると思っている。</p> <p>また、40歳以上の進行した歯周病を有する者の割合が低くならないことは、歯科医院に行く時間がないという背景があるのだと思うが、次期計画策定のターゲットでもある健康に興味がない人とつながっていると思う。</p> <p>あとは、かかりつけ歯科医院があるかどうかについても、事業所をはじめとした地域の皆様、職域の皆様との連携などの具体的な案が必要。</p> <p>歯周病が原因で全身の健康に影響することを知っている人の割合も非常に低い。そこについても対策ができないか。オーラルフレイルの認知度向上にもつながるのではないか。</p> <p>障害児・者の健診もコロナで進んでいないので対応していきたい。</p> <p>また、最後に、災害時に歯ブラシ等をそろえることについて、災害時亡くなる原因で高いものに誤嚥性肺炎がある。関連死を防ぐためにも啓発が必要。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>他に意見質問はあるか。</p> <p>歯科の課題は多い。医師会としても、歯科の健康が全身の健康につながることを伝えていかないといけない。地域ケアプラザでも歯科医師が活動されていると思うが、そこでも教育・啓発は継続していく必要がある。</p>
	<p>議事(3) 健康横浜21推進会議の各検討部会の検討状況について</p> <p>ウ 食育推進検討部会及び食環境整備検討会</p> <p>事務局より資料7について説明。</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>意見・質問はあるか。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>検討部会に参加していて、まさに検討しているところであるが、自然に健康になれる食環境づくりのために関係団体と協力して、食べるものを選べる環境や、自然に健康な食生活に進めるような仕掛けが重要という意見・テーマが出ていた。食育推進検討部会・食環境整備検討会と同じ意見で進めていけるのではないかと思う。</p> <p>(西田委員)</p> <p>今回初めて食育推進検討部会に参加した。地産地消等の推進を進めていくにあたって、農業協同組合であるため、食と農を基軸に実施しているが、11月が地産地消推進月間のため、教育委員会や食育団体、横浜市、JA横浜の四者協働で学校給食の食材一斉供給を行っている。11月の一回のみの予定で現在進めており、本来コンスタントに行いたいのが、横浜市全体で20万食の食材を用意することもあり、今のところ回数を増やすのが難しい。いつも11月で大根やキャベツになり、横浜には大根とキャベツしかないのかと思われてもいけない。春には春の野菜、夏には夏と季節に合った農作物が採れるので、お子さんに味</p>

	<p>わってもらいたいと思っている。</p> <p>(吉田委員)</p> <p>子どもたちにといいのもそうだが、大人も含めて、自然に体にいいものが取れるようにしたい。しかし、前面に出しすぎると嫌がる方もいるので、いろいろなアプローチの仕方を皆さんと相談しながら進めている。引き続きご協力・ご指導いただきたい。</p> <p>(鑑田委員)</p> <p>お弁当屋の会員の中では農家とつながっていて直接農家から仕入れるなどしているところもある。学校給食の食材一斉供給については、大根とキャベツだけだと確かに残念だ。採れる食材はいろいろあるのでせめて四季の4回できたらいいと思う。</p>
	<p>議事(4) 横浜市におけるフレイル予防の推進について 事務局より資料8を説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>昨日も医師会にてご説明いただいたが、リーフレットの裏面を医師会のメンバーがみて、自分に当てはまっていると言っていた。決して高齢になってからだけのものではない。若いうちから取り組んでいかないといけないということをご案内いただけたらと思う。</p> <p>(田口委員)</p> <p>フレイル予防の検討会にも参加させていただいているが、一年以上かけていろいろな団体に関わって作成してきたもので思いが詰まっている。色々な機関で使いやすいものになっているはず。是非使っていただきたい。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>ここにいる皆様に、啓発をお願い申し上げます。</p> <p>啓発に関してマスコミの立場で長谷川委員から意見を願います。</p> <p>(長谷川(由)委員)</p> <p>啓発はすごく重要だと思っている。</p> <p>フレイル予防もそうだが、議論が少し戻ってしまうが、妊婦の歯科健診も、受診率がよくないというお話があった。これも啓発不足なのではないかと思う。</p> <p>自分が妊婦だった頃は妊婦健診、母親教室はみんな必ず受けていた。でも、妊婦歯科健診を受けている人は当時周りにあまりいなかった。妊婦健診を必ず受けているのであればそういったところで啓発していけばいい。関連団体で一緒になって啓発したらいいのではと思う。</p> <p>フレイルについても、もちろんメディアとしても発信していかなくてはいけないと思っているが、関連のあるところでリーフレットをどんどん活用していったらいいのではないかと思う。</p>
	<p>(5) 各団体の重点取組について</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>こちらからの進行は田口副会長に願います。</p>

(田口副会長)

ここから資料9をご覧ください。皆様の取組状況や今後の重点取組について発表いただきたい。

(島田委員)

最終年度に向けた取組方針については、子どもたちの食生活を重点に置き、早寝早起き朝ご飯の推進と、保護者の健康にかかわる生活改善等の充実を図るとしている。

2022年度の取組の中で、食生活に関わることについて説明する。子ども達が大切な人にお弁当を作る、よこはま子どもお弁当コンクールを実施している。栄養バランス、おいしさを工夫しながら、料理への関心を深めてもらい、食育につなげられたらと思っている。

中学校給食について、ハマ弁からデリバリー型給食に代わり、喫食率が上がっている。保護者のお子さんの食についての興味が上がっていることが数字に出ていると思っている。これらのことで、食育から、健康づくりにつながっている。

(齊藤委員)

最終年度に向けた取組方針としては、働き方改革実現に向けて、最重点課題として取り組む。心の健康づくり計画の策定事業所の割合を80%以上とする、ストレスチェックの集団分析実施事業所の割合を85%以上とするとしている。過重労働・長時間労働の是正が一つの大きなテーマとなっている。

一般の事業所においては、すでに時間外労働の規制が適用されているが、適用が猶予されている建設業、自動車運転者、医師等、特定分野の労働者について、上限規制の適用が令和6年4月からと迫っているため、対象事業者に対して働き方改革の取組を周知啓発し支援している。長時間労働の抑制及び過重労働による健康障害を防止するために長時間労働が行われていると考えられる事業所に対する監督指導を引き続き実施する。

職場の産業保健活動やメンタルヘルス対策が適切に実施されるよう、引き続き周知指導を行っていく。

(吉田委員)

最終年度に向けた取組方針として、バランスよく食べ、野菜たっぷり、塩分少なめの食事提案を通じて、お子様を含めた地域住民との健康づくりの普及啓発の一助を担う。健康経営で従業員の健康な身体づくりを推進する、メーカー、協賛企業の協力を得ながら、食育、健康づくりの普及啓発に努めるとしている。2022年度の取組として、神奈川食育を進める会はコロナで活動は少なくなっているが、健康横浜21の野菜を食べることの啓発や、地産地消、店舗で地元野菜を提供、旬野菜のメニュー提案など行っている。また、コロナもそうだがインフルエンザの予防啓発を行う。また、生活習慣病健診関係について社内で検討しているのと、コロナ感染予防対応としては野菜の袋詰めの際に手袋を用意したりした。健康経営について、喫煙率が高いことが毎年指摘されているが、

喫煙状況の推進や、産業スタッフに講演を依頼するなどしている。

(西田委員)

最終年度に向けた取り組み方針としては、めざせ！健康寿命100歳の継続、組合員や地域住民の健康づくりの一助を担う、組合員の健診受診率の向上を目指す、子どものころから農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓発に努める、としている。

農協の中で、若年層の担い手の健診受診率が低い。神奈川県 JAグループをあげて健康意識向上ステップアップ運動をやっていこうとしている。その中でも、生活習慣病健診や人間ドックの受診率向上を目標としている。

100歳講座は、高齢者向け、元気世代向けと、年代に合った講座を用意している。食農教育については、親子で農業体験や、小学校での稲作栽培指導、小学校出前授業、地産地消料理教室など進めていきたい。また、高齢者の集いの際には、オーラルフレイルやフレイルのリーフレットを使って啓発している。

(田口副会長)

発表を聞いている中で、意見や質問が出ているかもしれないが、最後に時間を設けてお伺いする。発表では、連携についてもお話いただけると今後の活動に活かせるかと思う。よろしく願い申し上げる。

(鏑田委員)

昨年度の実績としては、コロナの影響ですべてのイベントが中止になった。代替案として、毎年行っている食中毒予防キャンペーンをいつもは広場でやる所を中止し、会員の店舗でアンケート、リーフレット、広告を貼るなどして実施した。今年はやりたいとおもっているが、最悪の場合は去年のように行う予定でいる。

今年度の方向性としては、特定健診受診率向上について、受診率昨年より向上したので、全国平均に近づけていきたい。検便事業について、衛生管理計画、ハサップの施行により検便が増えた。いい方向に向いていると思っている。

(蟹澤委員)

最終年度に向けた取組方針としては、横浜市健康福祉局・区福祉保健センターと連携した活動としている。

今年度の取組内容としては、主要テーマでは地域の健康づくり、サブテーマの中でも重点取組項目として、コロナで受診控えにより病気の発見が遅れるなど重症化予防のためにも特定健診、がん検診の普及啓発に取り組んでいる。この夏各地区での活動は第7波の影響もあり、縮小・中止・延期を余儀無くされることはあったが、少人数、屋外で行えるウォーキングなどを推進している。また、コロナ対策・熱中症対策の両立についての啓発をした。少しずつ活動再開している。来たる活動のために、推進員に向けてフレイルについての研修をするなどして備えている。

(長谷川(由)委員)

最終年度に向けた取組としては、情報発信というところで紙面を活用したり、

読者に限らず市民全体にむけてセミナーなどを使って健康・運動情報を発信し、正しい知識を身に付けてもらおう、としている。AYA世代への啓発が必要という現状があると思うが、新聞のメイン読者層が中高年層、特に60代以上という実態があるため、その層に向けての啓発が中心になってしまう。2022年度に関しては、コロナは情報がすでに多く出ているが、コロナによる心身の影響については、コロナ自体の情報より少ないと感じたため、10月に精神科医・臨床心理士によるセミナー開催予定としている。企画当初は、ネット環境に不慣れた高齢層に配慮しリアル開催の予定であったが、8月の感染急拡大をうけ、オンライン配信のみの開催とした。中高年層が情報に取り残されてしまうのではという懸念もあるため、後日紙面掲載にて情報弱者のフォローも行っていく予定としている。オンラインでなく実際にセミナーを開催出来たらフレイルのリーフレットも配布できたが、オンラインのため今回はできない。こういう面もコロナの影響といえるかもしれない。今後はこういった機会に周知を広められたらいいと思う。紙面での情報発信としては、9月はがん啓発月間のため、胃がんを取り上げて4ページにわたる特集を掲載予定。専門医に座談会を実施いただき、内容を掲載する。また、11月神奈川県でねりんピック開催予定のため、4月からシニアアスリートを取り上げてインタビューを掲載している。80代でも現役でバリバリ活躍されている方が多くいる。運動の専門的などころを聞くというより、元気の秘訣、健康な身体づくりのための食生活のことを聞いている。中高年齢層の読者が読んで、いつまでも活躍ができると思っただき、体づくり、食生活に気を付けてくれたらと思っただき、ねりんピック当日には特集紙面を展開予定。

(豊福会長)

最終年度に向けた取組方針は、がん検診受診率のさらなる向上と精度管理の充実としている。すべてのがん検診を横浜市医師会が精度管理できるようになりつつある。

がん検診の啓発について、市民公開講座をYouTubeで配信しているが、7月の1回だけ対面で実施している。すい臓がん、子どもの肝臓がんについて行った。また、今年度としては、糖尿病の重症化予防事業の中で、医師向けの研修会の実施や、がんの治療と仕事を両立させていく、産業医向けの研修会を横浜市と協力して企画・実施していく。

(佐藤委員)

最終年度に向けた取組方針は記載の通り。まさにライフステージすべて、妊婦から亡くなるまでを所管としている。歯科検診推進に連携が必要であり、また、口腔がん検診について神奈川新聞に取り上げてもらえたらと思っただき。口腔がんはがんの中でも非常にまれである。希少がんであるが、長引いてしまうと致死率が上がってしまう、しかし早期発見できると治すことができる。また、内臓のがんと違って、口のがんであるため発症するとQOLが非常に下がってしまう。舌の切除や顔面の切除など。検診で見つけることができるため、それを皆

さんに知ってもらいたい。

児童虐待、ネグレクトについても重要だと思っている。1歳半、3歳児、未就学児健診、診療所でも見つかる現状にある。歯科医師にも通報義務がこれから課せられてくるので引き続き取り組んでいく。

(田口副会長)

早速連携について触れていただき、感謝申し上げます。

(瀬戸委員)

第2期計画の中で、禁煙・運動について取り組んできた。今年度も継続中である、横浜市禁煙支援薬局認定研修会を7月30日に実施。最終年度の目標では横浜市禁煙支援薬局数を200薬局と設定していたが、参加は191名で目標には及ばなかったが継続して禁煙支援を行っている。禁煙支援を行う中で、COPDの認知度が低いことが分かった。各薬局での説明の中で伝えていきたい。また、継続事業である、薬草探索健康ウォーキングを今年も実施予定。今年度は都筑区中川～北山田駅の薬草を解説していただきながらウォーキングを行う。

定員を超える90数名の応募があったがコロナ禍のため抽選で絞って実施予定。薬だけでなく普段の健康のことも薬剤師は相談を受けているので、健診についても受診勧奨を行い、連携を図っていきたい。

(長谷川(利)委員)

最終年度に向けた取組方針はすべての世代に向けて食を通した健康づくりを担うとしている。

2022年度の取組計画としては、大規模なイベントは開催が難しいが、感染対策をしながら少しずつイベントなども復活させ、準備している。各世代に向けた取組、イベントの開催に協力していく。特に、歯科医師会のデンタルショーに食育関連のブースを開設予定。また、健康財団の健康チャレンジフェアも開催検討中。減塩に対する展示や啓発を中心に行う予定。ほかに、感染対策をしながら小規模に離乳食教室、webを使用しての啓発、レシピ集の作成など行う。フレイルのパンフレットは栄養士会の広報が、横浜市の会員に向けて同封して配付し活用してもらおう予定。

(金子委員)

最終年度に向け、マラソン大会やスポーツセンターにおける教室・イベントなどで参加の機会充実を図るほか、アウトリーチ型事業として、保健活動推進員など地域役員や地域施設と連携しながら、出張型でスポーツの機会の拡充をはかることを取組方針としている。

2022年度は、働き世代を含めライフステージに応じた健康づくりの糸口が見つかるよう、マラソン大会等イベントの支援や実施、子どもの体力向上に向け保護者啓発を併せた事業の推進を行っていく。また、スポーツ活動のすそ野を広げるため、協力者としてのスポーツ人材の養成・育成・活用の事業を進めるとともに、事業や活動内容を広く知ってもらえるよう、SNSなど新たなネットワークも活用しながら広報にも力を入れていく。

また、ボッチャなど、障害の有無や年齢に関わらず楽しめるスポーツ「インクルーシブスポーツ」の取組にも力を入れ、誰もがいつまでもスポーツを楽しめる豊かな社会を目指して今年度も進めていく。

(長谷委員)

ニコチン依存症の対策を、治療の面及び公共の場の禁煙化によって取り組んでいる。来年、日本禁煙学会総会を横浜で開催予定。開催方法、メインテーマは検討中。

また、かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力、企業への禁煙支援など行っている。個人の思いであるが、コロナ禍こそ禁煙に取り組んでもらうように喫煙者に勧めてほしい。ただ、治療薬のチャンピックスが全世界的に使用停止中にあり、いつ再開かわからないこと、ニコチンパッチも供給が厳しい状況で、医療機関によっては今できないというところもあるようだが、薬剤師会に頑張ってもらっている。薬局でのニコチンパッチ・ニコチンガムを指導とともに活用もできる。コロナは呼吸器からくる感染症であるため、呼吸器を丈夫にするためにも禁煙は必須である。

(高塚委員)

最終年度に向けた取組方針は記載した通り。2022年度の取組としては、連合会内に設置している、保健事業支援・評価委員会（市町村保険者が取り組まれているデータヘルス計画の関係や個別事業計画について助言や評価を行う委員会。8名の有識者、医師で構成されている。）において、8月に3回部会を行った。申請のあった保険者に委員がヒアリングを行い、現在助言をまとめている。コロナ禍のためヒアリングはwebで限られた時間でとなっており、県内市町村で120件程度ご希望されているため、時間的に厳しい部分もあった。今後はヒアリングの後のフォローアップ研修を含めて検討していきたい。

また国保データベースシステムについて市町村職員等を対象に生データを使って初任者向け研修・一体的実施に係る研修を実施した。初任者向け研修の方は、県内40保険者の中で24の保険者、72名に参加いただいた。一体的実施の方は、29の市町村、75名に参加いただいた。健康測定機器の貸出については、6月に緑区に貸し出しした。骨密度測定器、体組成計、脳年齢測定器が特に人気である。

(堤委員)

最終年度に向けた取組方針は、1つ目は健保組合だけの話ではなく、保険者全体の課題だと思うが、特定健診・特定保健指導の国の目標達成すること、2つ目は神奈川連合会に加盟している73健保の加入事業所における健康経営の普及拡大を図るという意味で、かながわ健康企業宣言事業の拡大、3つ目は、1つ目の目標の実現に向けてという意味も込めて、加盟健保の健康増進のための取組の後押しをしていくということで、共同保健事業の拡大をあげている。

2022年度の取組計画としては、基本的に大きく変えていないが、毎年度の取組のPDCAをしっかりとまわして、内容を充実させていく方針でいる。1点目は健康ウ

オークの充実拡大としてかながわ100キロウォークを引き続き開催していく。この2年はコロナで中止となってしまったため、今年は各自で参加できるような新しい方式で内容を拡充した。また、共同保健事業の実施については、毎年行っているが、メニューを年々更新し、充実拡大を図っている。かながわ健康企業宣言事業の拡大展開についてはエントリー数・認定数の数値目標を確実に達成するため、講習会・説明会の内容をより充実させていく。

(田中委員)

協会けんぽの状況についてまず触れさせていただく。令和2年度の加入者ひとりあたり医療費については、コロナによる受診控えの影響により前年度より大きく減少した。しかし、令和3年度は協会健保の全国平均を上回っている。その傾向は現在も続いており、令和4年度に入ってから毎月全国平均を上回っている。東京、千葉、埼玉の3県と比べても一番高い医療費となっている。これは横浜市だけでなく神奈川県全体の傾向である。加入者の医療機関への受診傾向を変えることは困難であるが、健診の受診率を何とかしたい。

令和3年度の生活習慣病の健康診断受診率が56.5%。被扶養者の特定健診受診率が24.7%。これらが全国30位前後。検診を受けた後の特定保健指導の実施率が9.5%で全国46位。この数字からみるといずれも低い状況にある。年に一度の健診を受けていない人がかなりいると推測される

最終年度に向けての取組方針として、健診受診率向上、特定保健指導実施率向上とともに、健康経営を浸透させ、かながわ健康企業宣言参加事業所数を増やすための取組を確実に実行していく。

(田口副会長)

発表を受けて意見・質問はあるか。既に連携をされている機関はどのようなきっかけで連携に至ったか、佐藤委員にコメントをお願いします。

(佐藤委員)

デンタルショーとはモーターショーの歯科バージョンのようなもの。2年に一回、横浜デンタルショーというものがパシフィコ横浜で開催されており、一番古いデンタルショーといわれている。今回のテーマが食支援のため、栄養士会の長谷川委員にお声がけして、ほかにも介護の分野なども含め、様々な分野の展示もしたいと考えているところである。

健康経営について質問。横浜健康経営認証のチェック項目はどこで決められているのか。実施しようと思ったがハードルが高くなかなか進められなかった。まずはAから始めようと思ったが、簡単すぎると健康経営につながらないと思うが、今後変えていく予定とか、現在このように決められている理由などあればお聞きしたい。

(事務局)

横浜健康経営認証は、3つのランクを設けている。国の制度はかなりハードルが高い精度になっているが、横浜では、ランクを分けることによって、ハードルを上げて取り組みやすいように設定している。

	<p>(田口副会長) 先ほど広報面の課題について発言があった、金子委員にコメントをお願いします。</p> <p>(金子委員) 広報PRは紙面づくりなどあまり上手でないことが悩み。スポーツセンター利用者の多くを占めていた高齢者が出控えたまま、戻ってきていない。オンライン化した事業もあるが、紙媒体の有効な情報元として神奈川新聞で紙面に上げていただけたらありがたい。また、子どもは少なくなってきたが、人気が高いものはすぐに満員になる。有料事業のチラシ配布は、学校によっては敬遠される場合があるが、子どもやその保護者に直接届くルートとして、学校に受け入れていただけるようPTAからも口添えいただけたら。様々なライフステージの皆さんに、スポーツセンターが様々な事業を実施していることを知ってもらいたいと思っている。</p> <p>(長谷川 (利) 委員) 栄養士会ではYouTubeでスポーツ栄養に関する動画を作った。10月まで配信している。良かったら見てほしい。</p> <p>(佐藤委員) スポーツ協会の方と連携をとったことがある。日本で一番行われているスポーツはバスケットボールといわれるが、バスケットボールによる歯の破折が多い。スポーツ協会で横浜市内のミニバスケットボールチームのコーチにスポーツマウスピースの必要性について知っているかを含めたアンケートを実施した。現在集計中。</p> <p>(豊福会長) 「連携」をテーマに話が進み、有意義な議論だった。私からのお願いになるが、スポーツ協会の活動の中でフレイルのリーフレットをどこかで使ってもらいたい。減塩を栄養士会から提案されていた。塩辛いものの方がおいしいのは確かだが、塩分が薄い方がいいと頭でわかっているけども外食などでどうしても塩分を取ってしまう。スポーツ協会や食品衛生協会でも、減塩の必要性を食関係の皆様にもっと周知してもらいたい。</p> <p>また、禁煙について、未成年と同居している女性の喫煙率が下がらない。もちろん高いわけではないのだが、そういった層に子どもの前で喫煙をしないように引き続きアピールをしてほしい。</p> <p>また、特定健診について 就労している女性の特定健診の受診率が上がらない。もう少しアナウンスが必要と考えている。</p> <p>それでは、本日の議事は終了したので、進行を事務局にお返しする。</p>
その他	<p>今後のスケジュールについて 事務局から資料 10 について説明</p> <p>(事務局) 推進会議の次回開催は 3 月であるがその間に食育推進検討部会、歯科口腔保健</p>

	<p>推進検討部会、第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会が進んでいく。それらの検討内容を踏まえて骨子案を固めていきたい。</p> <p>また、令和5年度4月に委員改選がある。現在の委員の皆様は任期は3月で終了となる。横浜市附属機関における女性委員の割合を40%以上とすることが目標とされている。交代を予定されている場合で、後任に女性の適任の方がいらっしゃる場合にはご推薦をお願いしたい。</p> <p>これにて閉会とする。</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1 健康横浜21推進会議 委員名簿</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱</p> <p>資料3 (冊子) 第2期健康横浜21最終評価報告書</p> <p>資料4 第3期健康横浜21 目次構成案</p> <p>資料5 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会の検討状況について</p> <p>資料6 歯科口腔保健推進検討部会の検討状況について</p> <p>資料7 食育推進検討部会・食環境整備検討会の検討状況について</p> <p>資料8 横浜市におけるフレイル予防の推進について(地域包括ケア推進課)</p> <p>資料9 第2期健康横浜21関係機関・団体情報共有シート(抜粋版及び原本)</p> <p>資料10 第3期健康横浜21策定スケジュール(予定)</p>